

## 「木造校舎」と「腰ひも」最後の29期

第29期 田畑由紀夫

29期生が入学した昭和45という年は大阪で万博が開かれ、「東大安田講堂事件」とあの「三島事件」の起こった年である。入学当時は学校周辺の風景も今とはだいぶ異なり、あちこちに畑が残っていた。

われわれ1年生の教室はグラウンド近くにあった木造校舎で、授業が終わって逃げようとする1年生を“でかバン”に“腰ひも”といういでたちの2年生が校舎の出口で見張っていたようなこともあった。(因みに、木造校舎も腰ひもも卒業時には既になくなっていた)

5月頃には恐らく20人はいた一年生部員は、1日に2度救急車の出動があった猛暑の宇都宮夏合宿が終わった頃には半分以下に減り、1年生最後の頃にはさらに人数が減って、3年生になった時には小野、桐ヶ谷、林、亀池、田畑の5人だけになっていた。

3年になって間もない昭和47年6月、『第20回・関東高等学校ラグビーフットボール大会』の出場権を得て、千葉県の勝浦市へ遠征することになった。関東大会への出場は20期以来9年ぶり4回目ということで、OBの期待も大きく、春に新調したばかりの伝統の黒ジャージでの出場となった。東京代表は、私立7校(目黒、保善、久我山、大東一、成蹊、法政一、日大二高)と都立5校(千歳、国立、大泉、秋川、小山台)で、関東各県の代表を合わせて48校であった。

開会式が行われた6月2日は土曜日であったが、1学期の中間試験2日目に当たっていた。このため出場が決まった時、遠征に参加するラグビー部員(2年生12名を含む総勢17名)の扱について先生方間で問題になったが、結局中間試験は『公欠』(再試験もなし)というこ

とで決着した。大会出場も嬉しかったが試験を『公欠』できるというその特別扱いに、級友の羨望の中、異常なほどの興奮と優越感を覚えたものだった。

到着した勝浦市では大変な歓迎ぶりで、驚いたことに駅前では自衛隊と地元小学生のブラスバンドが整列、演奏して我々を迎えていたのである。外房の海が見下ろせる宿舎で、広い風呂につかり夏合宿とは比較にならないほどのうまいメシを食った。その夜は試験から逃れられた解放感、泊りがけの遠征という初めての経験、翌日の試合のことなどでメンバー全員興奮して遅くまで騒いでいたように記憶している。

翌日の試合当日は雨。泥だらけの大変な試合であったが、地元千葉県の清水高校に23-0で快勝し、帰途に着いた。

29期5人のポジションは、バックスではキャプテンを務めた小野がスタンドオフ。小刻みなステップワークとキック力は当時の高校生のレベルを超えており、中でも強烈なタックルは一年生の頃から定評があり、ラインを抜かれた決定的な状況の中で味方の危機を何度も救った。ただ真面目な性格で力を抜くことを知らず、そのため脳震蕩による記憶喪失や顔面の怪我などが絶えなかった。そして合宿ではよく救急車に乗った。

センターの桐ヶ谷は、練習が嫌いで練集中は機嫌が悪かったが、試合になると人が変わったように生き生きとしていた。人に強く、抜ける場面でも人に当たるようなプレイスタイルで味方を狼狽させ、敵を負傷させた。もう一人のセンター林は、常に冷静な性格が持ち味で、コンバートの名手として活躍し、調子の良かった関東大会前後では、

当時は当たり前だったトゥキックでタッチライン近くからでも楽々決めていた。

ロックの池亀は、足はめっぽう遅いがスクラムは比較的強く、足が関係しないラインアウトでは身長を活かしてよくボールを取った。ただ欠点は、試合中でも敵のフォワードと友達になってしまう人の良さであった。フランカーをしていた田畑も足は早くなく、持久力だけが取り柄で試合の終わり頃になって敵味方が疲れてきた頃になるとよくトライをした。試合で貢献できなかった分、校内マラソン大会などで活躍していた。

29期の心残りは3年最後の全国大会予選・日体大荏原戦で、あと一勝して秩父宮に行くことだった。結局秩父宮には行けなかったが、3年間に共有した経験は、今でも宝のような思い出となって5人の心の中に残っている。

（ 第 29 期  
同期生からのことば ）

合宿の苦しさ、久我山・日黒との試合など、苦い思い出も昨日のことのように蘇ってくるが、今となっては全て貴重な思い出。

小野恵

苦しかった事や嬉しかった事が今では良い思い出であり、ラグビー部への経験が社会に出ても心の支えとなっています。

桐ヶ谷宏

出会いは偶然の結果。でもラグビーとの出会いは偶然というにはあまりにも幸運で、先輩や同期生みんなに感謝しています。

田畑由紀夫



関東高校ラグビー始る

進行もまずまず団体リハーサル

第二十四回関東高校ラグビー大会は、昨日、勝浦市勝浦町から福川市松久谷体育センターを会場として、関東二都六県から四十八チームが参加して始まった。  
調布とら東部の若潮団体に所属、関大会をリハーサル大会として、当面に協力することにしており、勝浦市では、三日朝九時頃から市内小学生の強豪隊と随時自衛隊のグラウンドが両会場を兼用し、第二十四回関東高校ラグビー大会を祝って行進する勝浦市内の小学校数隊隊（勝浦市）  
同日東京から勝浦市ラグビー大会で花火大会と関大会、水部早稲千十ムネ苑西に相手チームが入場を避けた。専断に目録付した相手チームに、隊がい拍手が送られた。  
勝上、関大会二十四回出場島の甲府三高、十回の中郡三高、五回の前橋高、国立高へそれぞれ関東ラグビー協会から送状が贈られた。  
試合は勝浦市勝浦町対秋川高（東京）から始られたが、初めの大きな穴蹴としてほじろの進行ぶり、桐ヶ谷一関はホッとしていた。

第20回関東高校ラグビー大会

千歳高 23  $\left( \begin{matrix} 7-0 \\ 16-0 \end{matrix} \right)$  0 清水高

奥松 椋 金池 田石 菅小 小 荻 桐 中 大 島 江  
平 田 本 森 亀 畑 坂 沼 倉 野 原 林 桐 谷 島 林 田 川

FW

HB

TB

FB 補欠